

学校教育目標	「向上心」		重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 教職員がいそいそと教育活動ができる学校 保護者・地域から信頼される学校 	点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。
	—夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成—				

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
----	-------	------	------	-----	------	------	---------

I 学 校 運 営	1 開かれた学校づくり 小林	家庭・地域と情報を共有し、連携を図る。	教育活動に関する情報、生徒の様子を家庭・地域へ提供する。また、家庭・地域の思いや要望を吸い上げる機会をもち教育活動に生かす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの定期的な更新(特に生徒の様子) ○学校だより、生徒指導通信、学年・学級通信による情報提供 ○学校だより、生徒指導通信の地域での回覧の再開 ○オープン後のアンケートの活用(回収率を上げるための工夫を行う) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の時と比べ、保護者に学校の様子を見てもらう機会が増えた。ただし、6月のオープンは荒天のため中止。 ・ホームページの更新、学校だより等による情報提供が定期的に行われている。 ・学校だより等の地域の回覧を再開した。 ・オープンの保護者アンケートをテトル、フォームを活用し回収率を上げ、様々な意見を学校運営に生かそうとしている。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の時と比べ、保護者に学校の様子を見てもらう機会が増えた。ただし、6月のオープンは荒天のため中止。 ・ホームページの更新、学校だより等による情報提供が定期的に行われている。 ・学校だより等の地域の回覧を再開した。 ・オープンの保護者アンケートをテトル、フォームを活用した。回答率が以前よりも下がっているため、保護者の協力を得るための方策が必要である。
	2 危機管理体制の整備 小林	危機管理への体制整備、危機対応能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害や不審者対応について、訓練を実施し、より実効性のあるマニュアルとなるように見直しを行う。 ・安全点検や教職員研修など、危機管理への体制整備や対応能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想定される場面における訓練のシミュレーションを実施し、特に教職員の対応能力向上を図る。 ・安全点検を確実に実施し、危険箇所を早急に改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検が適切に行われている。月1回の点検、学期に1回重点的な安全点検を行っている。 ・教職員の研修(さすまた研修)が行われるなど、教職員の対応能力の向上に努めた。また、避難訓練では実施方法の工夫が行われている。 ・廊下や教室の棚などの置き方等について、改善すべき点もある。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の点検、学期に1回重点的な安全点検を行っているが、点検の実施を徹底したい。 ・廊下や教室の棚などの置き方等について、改善がみられた。事故防止、災害時の危険性を下げるために取組を継続する必要がある。 ・危機管理の視点からも、備品管理を全職員で徹底したい。 ・教職員の研修(さすまた研修)、実践的な避難訓練等が行われるなど、教職員の対応能力の向上に努めた。生徒の意識を高めるための取組をさらに継続していく必要がある。
	3 学校業務改善の推進 小林	業務内容を見直し、意識改革により勤務時間の適正化を図る。	定時退勤日の完全実施を継続できるように、教職員の意識改革を図る。会議、委員会のタイムマネジメントを進め、効率化を進める。	各自、業務を計画的に行う、業務に軽重をつけるなどタスクマネジメントに取り組む。会議資料の事前配布により、各自が事前確認をする。会議のレジメに所用時間を入れるなどをし、会議の時間が1時間以内になるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識が高まり、会議や定時退勤日を中心に業務改善が進められている。定時退勤日だけでなく、他の日も19:00退勤を推奨しており、定着している。 ・特に生徒指導対応、保護者対応などに関する業務量が増加しているように感じる。業務量自体は減っておらず、抜本的な改善には至っていない。できるところで業務の合理化を図る必要がある。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識が高まり、会議や定時退勤日を中心に業務改善が進められている。定時退勤日だけでなく、他の日も19:00退勤を推奨しており、定着しつつある。 ・生徒指導対応などに関する業務量が増加しているように感じる。また、業務量自体は減っておらず、抜本的な改善には至っていない。そのため、まずは、できるところで業務の合理化を図る必要がある。
	4 教職員の資質の向上 小林	魅力ある授業の展開と、個性を尊重した指導の能力の向上を図る。	教職員の資質向上を目指し、校内研修を計画的に実施する。協同的な学びを取り入れた授業を実践し、教師の授業力の向上と予防的開発的な生徒指導の能力の向上を図る。	協同的な学び、QU、カウンセリングマインド、特別支援教育、ICT他、教職員のニーズに応じた校内研修を行う。学年内、教科担当同士でのOJTが促進できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ※研修推進の「トリオ研修」等の評価については、「研究推進」参照 ・ICTに関しては、OJTが行われたり、ICT支援員の助言を受けたりして、それぞれが資質・能力を高めている。 ・研修が必要であるが、行えていないものもある。必要なものに関しては、担当から提案を行い、時間をとって研修を行う。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ※研修推進の「トリオ研修」等の評価については、「研究推進」参照 ・ICTに関しては、OJTが行われたり、ICT支援員の助言を受けたりして、それぞれが資質・能力を高めている。 ・研修が必要であるが、行えていないものもある。必要なものに関しては、担当から提案を行い、時間をとって研修を行う。

学校教育目標	「向上心」 一夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成一		重点目標 ・子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 ・教職員がいそいそと教育活動ができる学校 ・保護者・地域から信頼される学校	点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。		

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
----	-------	------	------	-----	------	------	---------

II 生徒指導	5 生徒指導	大本 ・原則的で具体的な指導方針のもと、組織で動く生徒指導。 ・予防と初期対応を適切に、迅速に行う生徒指導。	・年度当初の生徒指導方針を基本原則にしつつ、状況に応じて修正と改変を加え、共通理解して指導にあたる。 ・職員会議や生徒指導委員会、学年会議を生かし、日常の生徒指導を生かす。 ・保護者や地域、関係機関との連携を強化し、生徒の成長につながる指導を行う。	・各種会議において、生徒の実態把握と予防的対応について協議する。担任や担当者で問題となっていることを抱えこまず、組織で対応できるようにする。 ・日常生活ノートや『困ったことカード』、『いじめ実態把握調査』やQ-Uテストなどの調査を生かし、生徒の内面理解と実態把握に努め、問題となることの早期発見・早期解決の手だてを講じる。 ・生徒の情報を、通信や面談の機会を生かして積極的に発信する。また、家庭や地域などからの情報収集に努める。	・各種会議、アンケート等において、生徒の内面理解に努めるとともに、丁寧な教育相談を行うなど日常生活に生かしていく事ができた。 ・困ったことカード等には書かないが、様々な悩みや、困り事を内に秘めている生徒は少なからずある。日頃から生徒の表情や言動を観察し、事案を見逃さないように取り組む必要がある。 ・45分授業にして時間を確保したり、学年ごとにまとめて教育相談期間を設けたりする必要がある。教育相談の際には、生徒はゆっくり落ち着いて思いを話すことができている。行事等が重なって実施が難しい場合は、学年ごとに時期をずらしてでも実施していく必要がある。 ・職員会議、生徒指導通信等で生徒指導に関する明確な方向性を打ち出していき。また、日頃からの生徒の善い行いにもスポットを当てていくような取り組みも行っていく。	3.5	・生徒指導事案が発生した際には、忙しい時期にあっても各学年迅速に対応することができた。 ・生徒会を交えて校則変更にも着手できたことは、今後に向けても良い方針を示せた。その一方で、不要物であったりSNSや校則等のルール違反、関係が悪くなった際に修復する力が弱いといった課題は残っている。まずは教職員全員が「寄り添うべきは寄り添い、指導すべきは指導する」という姿勢を見せる必要がある。
------------	--------	--	--	--	--	-----	---

II 生徒指導	6 生徒支援体制の構築心の教育 大篠	・規律ある生活習慣を確立し、お互いを大切に作る温かい集団づくり。	・生徒の実態を把握して、生徒一人一人のニーズに応じた的確な生活指導や生徒支援に努める。 ・教師間や関係機関との連携を図りながら、教育相談や日々の取組を通じて、個々の生徒に応じた支援に努める。 ・予防、開発的な生徒支援のあり方を探り、実践する。	・不適切な欠席を防止する毎日の取組を継続するとともに、全生徒を対象とした教育相談週間を学期に一度ずつ持ち、生徒の内面理解、心の問題の早期発見とカウンセリングなどによる早期対応に努める。 ・QUに関する研修を実施し、学校全体で継続的かつ体系的にQUを活用し、予防的・開発的支援につなげる。 ・担任、学年教師、養護教諭、SCやSSW、また別室や適応教室の担当者とも情報共有をし、個に応じた支援を実施する。	・教育相談週間をとって、生徒との関係づくりができるようにしている。また、カウンセリング等の面談も必要に応じて入れられている。 ・各学年でQUの事例検討会を開き、来学期に向けた支援を考えられている。 ・毎週火曜にSC・SSWとの情報共有の時間をとり、連携して動いている。不登校生徒に対する支援も担任だけにしないように、SCやSSWとの面談も定期的に作っている。適応教室を利用している生徒とも月に数回不登校担当が面談している。学校復帰や進路について話す場となっている。	3.4	・別室利用生徒や適応教室利用生徒と定期的に面談をすることで、学校や家庭で連携できることを担当の職員に伝えやすくなった。 ・SSWやSCとも連絡を密にとり、情報を関係職員へ伝えることができた。関わっている職員も、担当の依頼に対して迅速に動き、生徒へ寄り添った対応をしていた。しかし、不登校・長欠生徒は増加しており、個々に対応することが難しくなっている面もある。 ・ケース会議については、前もって各学年へケース会議の日程等を周知できていれば、QU分析の結果も生かしながら会議を行えたのではないかと思う。その時々に応じたケース会議も必要であるが、日程が決まっているケース会議もあることで、様々な生徒をカバー出来たように感じた。
------------	--------------------	----------------------------------	---	--	--	-----	--

II 生徒指導	7 清掃活動 前田	・生徒一人ひとりが意欲的に清掃に取り組むことができる環境づくり	・清掃活動に対し、達成感や充実感を感じることが出来る生徒の育成	・週番活動として放課後に各クラスの美化部員が自分の学年の教室のチェックをすることで教室内の美化を保ち、またクラスの清掃意識を高める ・美化コンクールに教室以外の場所も入れ、評価、点検することで生徒の意欲を高める。 ・トイレコンクールを設定し、点検することで生徒の意欲を高める。 ・大掃除でのチェックリストの活用	・清掃意識を高めるためのコンクールや、週番での清掃点検に力を入れたが、意識の向上を感じる事がまだできない。 ・点検があるからや、コンクールのために掃除をするのではなく、掃除そのものに意義、美しい学校で生活することに喜びを感じられるような動機づけをしていきたい。	2.9	・掃除開始のチャイムまでに掃除場所へ移動しておく、掃除終了まで自ら汚れている部分を探して最後まで掃除に取り組む等、まだまだ徹底できていない部分があった。 ・美化コンクールやトイレコンクールをしたが、その時だけになってしまった印象で、コンクール以外の日に継続する動機づけにはならなかった。 ・掃除への意識を高めるために掃除道具を充実させたが、掃除に対する意識が変わったという実感はあまりない。ただ大掃除になるとこの掃除場所も、時間いっぱい一生懸命取り組むことができた。
------------	-----------	---------------------------------	---------------------------------	--	---	-----	---

学校教育目標	「向上心」 —夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成—		重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 ・教職員がいそいそと教育活動ができる学校 ・保護者・地域から信頼される学校 	点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
----	-------	------	------	-----	------	------	---------

Ⅲ 学習指導	8 研究推進 古角	生徒が主体的・協同的に課題解決に取り組むための授業づくり、集団づくり～学びの自覚化を目指して～	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上 ・授業形態の改善 ・協働を楽しめる教師集団の構築 ・研修体制の充実” 	<ul style="list-style-type: none"> ・トリオ研究の実践 ・授業のねらいと振り返りの設定 ・授業のユニバーサルデザインの模索と学習規律の徹底 ・家庭学習の定着を図るための取り組みを推進する。 ・「協同的な学び」を活用した学活の授業見直しと改善 ・ICT機器の有効的な活用・思考ツールの効果的な活用” 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも早い段階で多くの先生方にトリオ研究を実施してもらえた。 ・昨年に引き続き、校内授業研修を実施できた。 ・家庭学習に関しては手つかずのままであり、小中一貫に向けても考える必要がある。 ・普段の授業計画から「主体的、協同的な学び」を授業に取り入れるという意識が全体に浸透しつつある。 ・ICT機器を適切に活用する先生が増えた。生徒の使用も増え、操作する力も向上している。協同的な学び、深い学びへと繋げられるように今後も活用できるようにしたい。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・「興味関心を持続させる学習課題の設定」をテーマに研究をすすめたが、トリオ研究の時だけでなく日頃の授業でも意識してくれた教員が増えたことが良かった。 ・トリオ研究にしたことで関わる教員を増やしたが、今年も全員が授業をすることができていないことが課題である。トリオ研究を良い機会と捉え、新たな挑戦をたくさんの教員にして欲しい。
-----------	--------------	---	---	---	--	-----	---

Ⅲ 学習指導	9 基礎基本の定着と個に応じた学習指導の徹底 小山	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を目指して、個に応じたきめ細かな指導を充実させることができたか。 ・少人数ならではの指導を実践することにより、一人ひとりの生徒が意欲的に授業に参加をし、その成果を実感することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の確実な定着や個性の伸長を図る ・一人ひとりの学習状況に応じた指導の工夫を行う” 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心・適性などを的確に把握し、個に応じた指導を行う。 ・学ぶ意欲を向上させるための指導技術の工夫・改善を図る。 ・通常の集団ではできない「少人数ならではの」指導方法を行う。特に「Sクラス」では、「基礎・基本」の定着を目指して、生徒一人一人に応じた学習課題を明確にするとともにきめ細かい指導を推進する。 ・生徒一人一人の自己実現を支援するため、教員間で密な情報交換を行うとともに、積極的な生徒理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 【英語】 ・ハーフクラスにすることにより、積極的に発表する生徒が増えた。 ・ペアワーク等の活動が活発に行えるようになった。 ・表現する力、書く力はまだ身につけていない生徒もいるため、表現する機会を増やしていきたい。 【数学】 ・少人数による授業は、生徒の学習への取り組む姿勢がよくなり、学力向上につながるなど効果が実感できた。 ・数学の少人数のクラス分けはアンケートによる希望制で行っているが、基準が曖昧でSクラスにもLクラスにも、もう一方のクラスで学習するほうがより効果的と感じる生徒がいる。教育相談や三者面談の機会を利用するなど、よりその生徒にあったクラス選択ができるような準備に時間をかけていく必要があると感じた。 	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の習熟度別少人数授業により、教師が個に応じた指導ができている。また、人数が少ないために発表の機会が増えたり、ペアワークを活発に行えたりし、自分の考えをアウトプットする場が多く取れた。そのことが、理解の定着や思考力・表現力の育成につながっている。 ・習熟度クラスの分け方については、検討の余地がある。 ・英語の少人数授業は習熟度別で分けてはいないが、数学と同様に発表やペアワークなど表現を中心とする活動を多く取ることができている。また、教師が一人一人のつまずきを見取り、個に応じた指導を行えている。
-----------	------------------------------	--	--	--	--	-----	---

Ⅲ 学習指導	10 総合的な学習の時間 (3年生)井澤	「地域から広げる」	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の訪問先の文化や歴史的背景について理解を深める。 ・「自己を見つめる進路学習」を通して、進路を自ら切り拓く力を養う。さらに、自己を見つめ、より良い将来への展望へとつなげる。 ・学習内容をまとめたり発表したりする中で、自分の考えを正しく伝え合う力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班別自主研修に向けて、自分たちで設定したテーマをもとに計画を立てさせる。 ・進路情報を的確なタイミングで生徒や保護者に向けて公開し、主体的に進路について考えるように指導する。また、オープンハイスクールに積極的に参加させる。 ・各自で作った修学旅行新聞などを使って相互評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の班別自主研修に向けて、自分たちで話し合いながらテーマを決めて計画を立てることができた。 ・修学旅行当日は、班で協力し合いながら、立てた計画通りに行動をしようと意識をして動いていた。 ・互いの修学旅行新聞を見ながら振り返りができた。 ・進路実現に向けて、多くの生徒が夏秋のオープンハイスクールに参加をした。 ・学年黒板や学級へ進路のための掲示や資料の配布が遅れることなく提示できた。 	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学習の時間は、修学旅行や進路に向けて有効に活用できたと思う。 ・修学旅行においては、生徒中心に進めながら、教師がサポートという形で計画的に時間を使いすすめることができた。 ・進路においても生徒に寄り添いながら、生徒自らが進路決定に至る手助けができる時間として使えた。
-----------	-------------------------	-----------	---	--	--	-----	--

学校教育目標	<p>「向上心」</p> <p>－夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成－</p>		<p>重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 ・教職員がいそいそと教育活動ができる学校 ・保護者・地域から信頼される学校 	<p>点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。</p>		
領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
	10 総合的な学習の時間 (2年生) 則包	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来は自分の手で」 ・「生き方」について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり体験学習を通して、技能の素晴らしさ、楽しさ、難しさを感じ取る。 ・「トライやる・ウィーク」に主体的に取り組み、自分の将来の進路を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業について調べ学習をするため家族に「聞き書き調査」を行いそれを新聞にまとめ発表する。 ・将来の自分を見つめ、なりたい自分を考える。 ・「トライやる・ウィーク」で、活動場所を選択し、5日間の活動、事後の振り返りまで、主体的に取り組む。 ・体験を通して学んだこと、感じたことを新聞にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期から継続して取り組んできた「トライやる・ウィーク」が予定通り実行でき、これまでのまとめとして、実践発表を行う計画である。 ・弁論大会、合唱コンクールへの取り組みも充実したものとあり、自他ともに達成感、充足感を得られた取り組みであったと思う。 ・後半は校外学習や生徒会活動の取り組みが計画されており、来年度へ向けて「なりたい自分」を目標に生徒一人一人、学級、学年が成長できるよう活動内容も考えていく。 	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・「トライやる・ウィーク」に向かって様々な講演会を企画し、その都度、生徒に刺激をあたえることができた。 ・弁論大会、合唱発表会等の取組によって、以前より生徒の表現力は向上していると思う。 ・1年間の活動を通して、個人から全体へ目を向けられるようになってきた生徒も増えてきている。今後も様々な行事(講演会)で生徒自身の内面の成長を促すとともに、学校のリーダーとして一人一人が成長できるように、取り組んでいきたい。
	10 総合的な学習の時間 (1年生) 宮崎	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生」のための力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をまとめたり、発表する中で自分の思いや考えを伝えたり、他者の考えや思いを受け止めたりする力を養わせる。 ・福祉や人権問題について学習し体験しながら、課題を見出し、解決しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や周囲の人にインタビューし、自分の過去・現在・未来を踏まえた「自分新聞づくり」を通してなりたい自分を模索する。 ・加東市在住の障害のある方の話を聴く。 ・手話、介護、車いす、アイマスク、インスタントシニア体験をする。 ・学習の成果を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月下旬から夏休みにかけて、「自分新聞づくり」に取り組んだ。家族へのインタビューや小さい頃の写真を見て、自分の知らなかったことや家族の思いなどに気づくことができた。 ・弁論作成、学級での弁論発表を通して、自分が思うことを聞き手に分かりやすく伝えること、また、他者の弁論を聞くことで、新しい発見ができた。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを安心して伝えあえる素地を築きつつある。また、自分の思いと違うことがあっても、他者の気持ちを聴いたり、譲り合ったりする力もつけてきた。 ・SDGsの調べ学習、発表では、小学校で学んだSDGsの学習をもとに、さらに深く調べ、スライドにまとめることができた。 ・福祉学習の開始時期が遅くなってしまい、内容が薄いものになってしまった。
	11 特別支援教育 上月	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの推進 ・校内支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートファイルと個別の指導計画を作成し合理的配慮ができるようにする。 ・個に応じた指導を実施し、校内支援体制を充実させる。 ・支援学級生徒と通常学級生徒との交流を図り、インクルーシブ教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍生及び通級指導等、通常学級在籍で支援の必要な生徒についても、早期に実態把握を行い、サポートファイルを作成して支援を行う。 ・職員研修や会議等と利用し共通理解の機会を設け、職員の連携の下、支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はぴあと連携して、その生徒に応じた合理的配慮を検討し、実施に向けて準備することができた。また、高校入試も見据えた合理的配慮を考えることができていた。 ・全職員が個に応じた指導を意識している。その結果、支援学級の生徒が交流学級での居場所ができ、通常学級生徒との交流ができていた。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員がインクルーシブ教育の意識を持って指導にあたっている。その結果、支援学級の生徒と通常学級の生徒が自然と交流できた。 ・サポートファイルを作成し、支援の必要な生徒の実態を把握し、合理的配慮を提供できた。 ・合理的配慮について、全職員で共通理解をすることができたので、今後も引き続き研修を行っていききたい。 ・副籍生徒との交流を通して、インクルーシブ教育をより充実していききたい。 ・支援学級の生徒の学習内容や時間割について、よりよい方法を考えていききたい。
	12 キャリア教育 則包	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進と推進体制の整備 ・キャリアノートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けさせたい力の焦点化。 ・キャリア形成にかかる体験及び学習活動における事前、事後の指導の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアプランニング能力の育成を図る。 ・保護者、地域、関係機関と連携をしキャリア教育の重要性について情報を共有する。 	<p>各学年、自身と向き合い、将来への展望を持たせる取り組みが実践されていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、自分史新聞を作成し、今までの自分の振り返りと今後の自分について考えさせた。 ・2年生は、ものづくり体験新聞や職業調新聞を作成させ、将来就きたい職業への展望を持たせることができた。 ・3年生は、平和学習を行い、過去の事や世界で起こっていることに意識を向けさせた。夏休み及び2学期のオープンハイスクールに積極的に参加させ、進学への意識を高めた。 	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度担当者として、市内の担当者と研修を重ねる中で、社中のキャリア教育は順調に進められていると感じた。 ・日々の学校生活のなかで、教師が生徒たちに指示すること、指導するすべてのことがキャリア教育だといえるのではないかと思う。自分を見つめ「なりたい自分になるために」どんな力を身に付けるべきか、生徒と教師と一緒に考える今の体制を維持していききたい。

学校教育目標	「向上心」		重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 ・教職員がいそいそと教育活動ができる学校 ・保護者・地域から信頼される学校 	点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。
	一夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成一				

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
----	-------	------	------	-----	------	------	---------

13 道徳教育	谷口	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情をはぐくみ将来に夢を持って生きていこうとする態度を育成するとともに、互いに尊重しあう温かい思いやりの心を育む。 ・体験活動や表現活動を取り入れ、自己を深く見つめ、人間としてよりよく生きるための人間力を伸長する。 ・生徒一人一人をよく観察し、ワークシートを利用しながら、具体的な文章による評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情をはぐくみ将来に夢を持って生きていこうとする態度を育成するとともに、互いに尊重しあう温かい思いやりの心を育む。 ・体験活動や表現活動を取り入れ、自己を深く見つめ、人間としてよりよく生きるための人間力を伸長する。 ・生徒一人一人をよく観察し、ワークシートを利用しながら、具体的な文章による評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション授業・ペア授業を行い指導力の向上を図る。また校内研修を実施し、教員の道徳指導力向上を図る。 ・年間指導計画の別業を活用して、教科においても指導の工夫を図るようにする。 ・長期休暇の親子道徳を実施し、各家庭に道徳の授業内容を把握してもらう。 ・生徒のワークシートを全て保管することや、板書を記録するなど、授業における生徒の具体的な発言や感想をまとめておく。 また、発言がなかった生徒もどれだけ道徳的価値に迫れたかをつかめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、ローテーション授業・ペア授業を行いながら、指導力向上を図ることができている。特に、若手の教員が積極的に授業を行い、中堅以上の教員からアドバイスをもらうという流れができつつある。全体の研修はできていないが、トリオ研究授業を道徳で行うなど、積極的に指導力向上につながる動きができている。 ・夏休みのネットワークシステムの不具合により、親子道徳が実施できていない。冬休みに親子道徳を実施し、授業でフィードバックできるように、計画している。 ・生徒のワークシートや板書データを保存する環境を整えていきたい。また、タブレットを用いた道徳も積極的に行い、意見を取りこぼさない工夫をしていきたい。 	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション道徳は教職員の授業力向上と負担分散に寄与している。全教職員の共通理解のもと、学校全体で道徳の指導力向上に取り組めた。 ・親子道徳を今年度も実施し、保護者の意見を盛り込んだ授業展開を実施することができた。生徒は自分たち目線の意見と保護者目線の意見を比較しながら考えを深めることができていたように思う。 ・タブレットを用いた授業展開の例を示すことができなかった。活用方法の情報を集め、教職員に伝えていくことが来年度の課題である。 			
		14 人権教育	谷口	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の推進体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・偏見や差別を許さず、人を大切にし、お互いを認め合う生徒の育成に努める。 ・校内研修や行事を通して教職員や生徒の人権意識の高揚を図る。 ・国際理解、部落差別を含めた様々な人権課題について、計画的、継続的に、指導に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人権作文や標語の作成、授業や行事を通して、人権について考える機会を増やす。 ・コロナ禍でも実施できる行事については様々な面で工夫しながら生徒の達成感や自尊感情を高める役割を果たしていけるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権作文・人権標語の作成を通して、生徒が人権について考える機会を設けることができた。また、優秀な人権標語については、職員室前に掲示し生徒の目に触れるようにしている。 ・1学年では部落差別の問題について道徳の授業で取り組んだ。部落差別とは何か、どのような差別で現在は何のような状況であるかを考える機会となった。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が人権について考える機会を持てるように、人権作文や人権標語を作成することができた。 ・普段の生活でも人権についての考え方について触れることができるように人権標語の掲示は次年度以降も実施していきたい。 ・差別問題の解消に関する教材を全学年で持つようにしたい。道徳の年間カリキュラムに位置付けられている教材・内容については実施の徹底を図りたい。
				15 防災教育	玉田		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の防災教育に係る指導力、実践力の向上 ・防災意識の高い生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育と防災訓練を年間計画に従って実施する。 ・自分の命を守る(自助)ことのできる生徒の育成を図る。 ・共助の気持ちを育む防災教育の推進する。 ・災害時の臨機応変に対応できる実践力を高める。” 		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を形式的なものだけではなく、違った想定をして行う。(生徒・教員) ・各自の役割を防災計画でしっかりと確認し、指導ができるようにする。(教員) ・臨機応変に対応できるよう工夫した訓練を行う。(生徒・教員)

学校教育目標	「向上心」 一夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成一		重点目標 ・子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 ・教職員がいそいそと教育活動ができる学校 ・保護者・地域から信頼される学校	点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
16	健康教育 村田	・健康で安全な生活を送るための知識や方法を身につけ、実生活で役立つ力の育成	・生徒の実態に応じ、保健の授業や講演会などを喫煙の害・正しい性に関する知識や考え方を養う。 ・性教育講演会を実施し、専門家の講話から知識を深めるとともに意識を高めさせる。 ・手洗いの仕方やマスクの適切な着脱の仕方など新たな生活様式に合った感染症予防に対する意識を高める。	・感染症やケガなどの予防に対して、個人が主体的に工夫し、クラスの仲間や集団全体を考え行動できるようにする。 ・講演会で専門機関と連携して得た情報や、保健の授業を通して得た知識から、健康な生活を送れるように生かしていく。	・9月～10月の生徒の様子から個々にマスク着用や手洗いなど自主的に行う様子が見られた。自己を病気から守るという観点では、健康な生活を維持しようと努める行動ができていていると感じる。 ・DV防止教室や薬物依存の講演会など専門機関と連携して正しい知識をもつこともできている。今後の生活に生かすことができるように保健の授業と関連付けながら、知識を定着させていきたい。	3.5	・新型コロナやインフルエンザなどの感染症が流行する中、養護教諭や生徒会保健部がクラスリーダーとなり、感染症予防を中心とした取組が行えた。 ・人権教育講演会では、命の大切さについての助産師の講演を聞き、自身の体調管理や健康的な生活について考えることができた。 ・今年は性教育講演会が実施できなかったが、今後も内容を吟味しながら、健康教育につながる講演会の実施など、生徒への啓発の機会を増やしたい。
17	食に関する指導 幸田	・健全な食生活を送るための知識や技能を身につけ、実践しようとする生徒の育成	・学校給食を通して「食と健康」への関心を高め、食に関する知識を身につけるとともに、マナーを守って楽しく食事する態度を養い、感謝して食べる意識を育てる。 ・各教科の授業やHR,ST等において、食育に関連する単元や内容の指導を工夫し、折に触れて話題にするとともに、体験活動を通じて生活に活かせる力を養う。	・生徒会給食部のポスター作成や呼びかけ等の啓発活動や給食コンクールを実施する。 ・感染予防を意識し、クラスや給食コンテナ室での統一した教師の支援を行う。 ・講話、調べ学習、実習等、学んだことを自分の食生活に活かせるような学習活動を工夫する。 ・「和食給食の日」など加東市の食育への取組と連携した活動を進める。	・「かとう和食給食の日」に各学級の給食部員による和食の魅力紹介を行い、食に対する意識も高まった。 ・11月の「和食給食の日」には社高等学校の生活科学科の学生に和食に関する話をしてもらう予定である。 ・給食コンテナ室ではマスク、エプロンの着用、アルコール消毒の徹底を図ることができた。 ・給食の残菜に関しては、給食部の日々の活動の中で残菜量の確認を行い、各学級で呼びかけをすることができた。今後も残菜に関する指導を継続していく。	3.2	・「かとう和食給食の日」での和食の魅力紹介、トライやるウィーク等の学校行事、給食部の呼びかけや取組等を通して、生徒の食に対する意識が高まったように思う。 ・給食部の呼びかけや残菜・残乳コンクール等の取組のおかげもあり、残菜を減らす意識を持つ生徒が増えたと思う。しかし、残菜の量がまだ多いことが課題である。今後は、好き嫌いをせずにしっかりと食べるという意識を高く持てるよう生徒、教員ともに呼びかけていきたい。 ・今年は、食育掲示板を活用した食育活動がほとんどできなかった。そのため、今後は食育掲示板を更新し、生徒の食に関する関心を高められるような情報をさらに発信していきたい。
18	個に応じた体力の向上 村田	・スポーツへの関心を向上 ・体力の向上	・生徒の発達段階等に応じて指導し、スポーツの楽しさを感じさせることができるようにする。 ・昨年の体力テストの結果や授業の様子を見て、生徒の実態に合った指導を充実する。	・体育の授業や部活動を通して、年齢や個人の発達段階に合わせた段階的指導を行う。 ・生涯に向けて、運動に親しむ基盤をつくるために、楽しく効果的な運動を工夫をする。	・体力テストの結果などから個々や年齢の発達段階に応じて、目標を立てて体力向上や改善に向けて取り組んではない。体育授業で学年ごとに取り組む内容を取り組もうとしている。2年生女子は握力の向上に向けて、体育の授業の導入時に毎時間トレーニングを行っている。	3.3	・4月に実施した体力テストの結果を受け、個々の体力を引き上げようとする取組を工夫して行った。 ・1・2年生においては、全校平均よりも劣っている項目(筋力・柔軟性)を改善するために、廊下に握力計や立位体前屈測定器を置き、筋力や柔軟性を気軽に測定することで、体力向上の意識を高めた。 ・今後は、上記のような取組を生徒会体育部主催で行ったり、全校的な取組にしたりし、さらに意識を高めたい。

学校教育目標	<p>「向上心」 一夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成一</p>		<p>重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 教職員がいそいそと教育活動ができる学校 保護者・地域から信頼される学校 	<p>点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。</p>		
領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
IV 課題教育	<p>19 生命の尊重と安全教育の充実 松田</p>	<ul style="list-style-type: none"> 無事故・無違反で自転車登下校する意識の醸成 安全で安心な学校生活を送ることができる環境作り 	<ul style="list-style-type: none"> ヘルメットの着用と荷台に鞆を固定することを徹底させる。 一列で通行することや横断歩道で一旦停止・安全確認の上、歩いて通行することを徹底させる。 通学路を遵守させる。 交通ルールを守り、安全な運転をすることを徹底させる。 ルールの遵守だけでなく、状況に応じて臨機応変に対応できるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による下校指導や交通立番指導を徹底的に実施することにより、安全な登下校の確認と啓発を実施する。 ノー部活デーの日を中心に交通立番をし、生徒の安全な登下校を見守る。 1列通行の励行を行うために、下校指導時に声かけを行う。 生活部校外の週番活動を活性化させ、生徒が主体的に安全意識を高められるような工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で登校、下校立ち番を徹底できた。 下校時に、校門に立っている教員で一列走行の徹底を促すことができた。 生徒が週番活動(鍵抜き点検)を徹底できた。 下校時の寄り道、横断歩道を降りて渡らないことが多々あるため、継続して指導が必要である。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ノー部活デーの際、各学年で登校、下校立ち番を徹底できた。 下校時に、校門に立っている教員で一列走行の徹底を促すことができた。また、生活部校外担当教員で巡回し、点検することができた。 生徒が週番活動を徹底できた。 下校時の寄り道、横断歩道を降りて渡らないこと、二列走行が依然として存在するため、継続して指導が必要である。
	<p>20 国際理解教育(異文化理解) 櫻井</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して他国の言語・文化に対する理解を深め、積極的に異文化について知ろうとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 英語の授業を通して、他国の文化・伝統に興味を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTとの授業で、スピーキング活動を充実させる。スピーキングチャレンジを定期的に行う。 ALTが作成した掲示物を英語教室に掲示する。 電子教科書等を使い、より発音などを聞き取る機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業では、ALTと話をする機会をたくさんとれた。1学期と比べて、積極的に話をする生徒が増えた。 スピーキングチャレンジは、1対1でALTとやり取りをするようなものを設定し、各学年で行っている。 電子黒板を使用し、視覚支援や正しい発音を聞かせることなど、様々な方面から支援をしている。 	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ALTが授業以外(給食や休み時間、登下校指導)にも関わっているため、生徒は英語に触れることをより身近に感じている。来年度も授業だけでなく様々な生活場面で英語に触れる機会を作っていきたい。 電子教科書を使用することで、目や耳など様々なところから英語を感じる機会を作ることができた。しかし、WiFi環境が万全でないため、しばしば電子教科書を使えなくなり授業の流れが止まることがあった。教育委員会にWiFi環境の改善を求めると同時に、電子教科書が使えなくなることも想定して、授業設計をしていきたい。
	<p>21 体験活動の充実(トライやる・ウィーク) 則包</p>	<ul style="list-style-type: none"> 充実して「トライやる・ウィーク」に臨むことができる体制づくり 生きる力を育む 	<ul style="list-style-type: none"> 「トライやる・ウィーク」の取組の中で、将来の進路や職業についての意識を高める。 社会で生活していく上で必要なコミュニケーションの取り方や社会人としてのマナー、態度、礼儀を身に着ける。 3校が連絡を密にし、足並みをそろえて実施できるよう取り組みを推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合のキャリア教育を通じて、将来の自分について考え、目標を持って生活できる。 「トライやる・ウィーク」の取組や普段の学校生活の中で、規律のある生活やあいさつ、礼儀への意識を高め、実践できる。 3校互いに連絡を取り合い、生徒のトライやるのサポートをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本来の「トライやる・ウィーク」のスタイルで実行でき、安堵している。やはり、学校での学びとはまた違った形での成長の場に出たようで、生徒の精神的な成長をみることができた。感想に充実した日々を送れたと書いていた生徒が多かった。 トライやるの取組む形態を加東市3中学校で行ったが、担当者が交替することで、戸惑うことも多かった。3中で連携システムをハード面、ソフト面からの見直しが必要だと感じる。 学校単位での取り組みの方が生徒間トラブルも少ないと考える。 	3.8	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育と絡めながら、年度当初から様々な活動(講演会の設定)を進めることができた。全ては生徒たちの成長のために、今年度「トライやる・ウィーク」が完全実施できたことは本当によかった。 「トライやる・ウィーク」後、生徒の成長を感じるとともに、地域の方々に生徒の頑張りを評価していただけたことは学年団としての喜びである。今後も、この体制で生徒達一人一人を導き、進路決定のために取り組んでいきたい。
	<p>22 読書活動の推進 吉川</p>	<p>朝の読書活動を中心とした読書習慣の定着・図書室の活性化をはかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読者の時間に主体的に読書を楽しむ習慣をつけるとともに、静かな雰囲気の中でSTを開始する。 読書習慣の定着に向け、読書の楽しさや有効性をしっかり説くとともに読書環境を整備していく。 図書室の利用者数が増えるように蔵書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回、図書部員が学級文庫の選定をし、学級に図書室の本の紹介をしていく。 図書だよりや掲示物などを通じ、全校生徒におすすめの本や図書室の紹介をすることで、利用者数を増やせるようにする。 生徒や教職員等、多くの人の意見を取り入れて選書することで、蔵書の偏りを避け、図書の実用性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書部員はクラスの様子なども考えながら、月に1回学級文庫を選定している。 選書の参考として、全校生に向けて図書アンケートを実施した。それに伴い、図書室の利用の仕方や状況についても質問した。 図書室の引っ越しに合わせ、図書部員の手も借りながら箱詰めする予定。 	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 朝読については、図書部員や担任の協力もあり、静かな環境で読書することができている。 選書の参考として、全校生に向けて図書アンケートを実施した。 図書室の利用の仕方に課題がある。図書部員だけの運営では難しい。教師による巡回、もしくは教師在室のもとで開館することが考えられる。

学校教育目標	<p>「向上心」 一夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成一</p>		<p>重点目標 ・子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 ・教職員がいそいそと教育活動ができる学校 ・保護者・地域から信頼される学校</p>	<p>点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。</p>			
領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
	23 部活動の充実 岸本	運動・文化への興味・関心の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階等に応じて指導し、スポーツ・文化の楽しさを感じさせることができるようにする。 ・各顧問が適切に休養日（ノ一部活デー）を設定し、合理的な指導を目指すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒に合った段階的に指導を行う。 ・休養や規則正しい生活は、ケガの防止や技術向上に効果があることを理解させて、指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの部活動が活気にあふれており、元気よく活動できている。また、部活動が好きだという生徒も多くみられ、意欲的に取り組んでいる。しかし、一方で退部する生徒も年々増えている。 ・各部活動で、ノ一部活動デーを設定することで、技術向上と休養との両立が図れている。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通して、活発に部活動を行うことができた。また、部活動に熱心に取り組むことで、技能や粘り強さ、努力をする姿勢などが身に付いた。 ・各部活動でノ一部活デーを設定して行うことができた。
	24 特別活動(学校行事など) 黒田	リーダーを中心とした生徒の主体的な活動による学校行事の充実と活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の成功を目指して、全校生徒が共通の認識を持って取り組む。 ・各行事で活躍できる学級や学年のリーダーを育成する。 ・リーダーを中心として、生徒が主体的に企画・運営を行う行事作りを目指す。 ・全生徒が共通の目標に向かって力を発揮することで、集団としての団結力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な取り組みとなるよう、企画・運営を生徒会が中心となって行う。その際、全校生徒から収集して意見をできるだけ反映させる。 ・MTや専門部会などを利用し、リーダー以外の生徒たちも、主体的に行事に参加できるようにすることで、自己有用感を高める。 ・体育大会、文化発表会の企画、運営を生徒主体で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会で、夏休みから企画・運営を行い、生徒会中心の活動ができた。 ・各学年の学校行事にて、四役会を実施し、委員長会が中心となり企画・運営ができた。 ・各学年の活動は充実してきているが、縦の繋がり、社中学校としての繋がりを生むことが今後の課題だと考える。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に関しては早い段階から主体的に取り組むことができた。 ・専門部会やMTなど、生徒主体の活動が今後更に活発になるようにサポートしていきたい。
	25 生徒会活動 黒田	生徒会活動の充実 生徒同士の繋がりや主体的な活動を通したより良い学校づくり	<p>「撼社 ～カタチを変えても変わらぬ伝統～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を成功させ、社中の良き伝統を受け継いでいく。 ・生徒一人ひとりが生徒会活動に参加しているという意識を持ち、意見が反映されていく生徒会活動を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の実施 ・MT・壮行会などでの学校全体の取り組みや団結力を図る。 ・専門部活動の情報共有及び活性化を行う。 ・計画的な学校行事の計画・立案を行う。 ・SNSルールの見直しを行い、周知と徹底に向けた取り組みを行う。 ・各学年の4役会との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省を踏まえ、早い段階から活動に取り組むことができた。また、昨年度の先輩の各部の意見を活かしながら、活動することもできた。生徒総会、オリエンテーションの際は、初めての大きな活動であったため、緊張や不安もあったが多くのサポートのおかげで成功できた。 ・今年度も、MTはリモートで行うことが多かった。その中で、ネットの繋がり状況がなかなか安定せず、途切れ途切れになるなど、改善が必要である。 ・体育大会においては、1学期の活動を踏まえ、多くの生徒が自信を持ち、遂行することができていた。 ・今年度は、校則変更に取り組んでいく中で、改めて一人一人が社中生という認識、校則の意味を考え、生徒会活動に参加することができた。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症が流行する中、リモートを効果的に活用することができた。1月末に新旧引継ぎ式を行い、新生徒会に活動をスムーズにつなげることができた。 ・校則変更に伴い、全校生徒への共通理解を図ることができ、改めて社中生という自覚が持て新たな取組を進めることができた。
V 望ましい集団	26 学級活動 櫻井	互いに認め合いながら切磋琢磨し、成長している学級づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の内面理解を心がけ、信頼関係を築く。 ・生徒一人一人がお互いを認めあえる温かい学級づくりに努める。 ・学級活動を通して、生徒一人一人が自分の役割を果たし、帰属意識を高める。また、社会の一員として必要な資質を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同的な学びを生かした班活動や話し合い活動を、日常生活の中で取り入れていく。 ・授業だけでなく学校生活全般において、班での一人一人の役割を意識させる。 ・計画帳や個別指導を通して一人一人とのコミュニケーションを図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動や班活動を通して、協同的な学びを生かした学級活動の場を設定している。タブレットを利用し、更に学びが深められるよう工夫をしている。 ・各行事で、クラスで協力することの楽しさや難しさ、個人・学級の成長を感じられるような取り組みを行っている。 ・一人ひとりとの時間を取るのが難しく、計画帳でのやりとりだけでなく、話す機会をたくさん取っていききたい。 	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに振り返りの集会をすることで、クラスと学年の良かったこと・改善点を全員で共有することができた。加えて、振り返りワークシートをすることで、個人の気持ちを周りに伝える機会も作ることもできた。来年にも活かしていきたい。 ・学級活動を行う際には、学級全体での取組だけでなく、班活動、個人での振り返りなど、様々な形態で取り組むことができた。また、教科や学年毎で活動することもできた。 ・他学年がどのような学級活動をしているのか、知る機会がなかったので、もっと情報共有をして、学校全体で取り組んでいきたい。

学校教育目標	「向上心」 一夢を抱き 自ら学ぶ 心優しくたくましい生徒の育成一		重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校 ・教職員がいそいそと教育活動ができる学校 ・保護者・地域から信頼される学校 	点数は、よくできた4点、できた3点、少しできなかった2点、できなかった1点で、教職員が評価し、その平均点を算出しました。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	具体策	中間評価	4点満点	成果及び改善策
づくり	27 望ましい学年集団づくり(3年) 井澤	義務教育最後の1年、中学校生活最後の1年を、個人として、集団として、今までで最高のものにする	(1) 基本的な生活習慣を身に付けさせ、義務教育の仕上げを意識させる (2) 学習に向かう雰囲気作りを行うとともに、個々の学力向上をはかる (3) 生徒同士をつなぎ、集団として成長していこうとする雰囲気作りを行う (4) 生徒の進路選択を全力でサポートする (5) 教師同士がつながり、教師集団として指導に当たっていく (6) 保護者と学校がつながる	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信や学年集会を通して、常に集団を意識させる。 ・様々な行事で、企画段階から生徒に参加させ、「自分たちがリーダーとして、全体を引っ張っていく」という気持ちを強く持たせる。 ・リーダー会の取り組み等を通して、基本的な生活習慣・学習習慣をより良く改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団としての意識は、年々高くなってきていると感じる。 ・行事や専門部活動を通して、最高学年として、下級生を引っ張っていかなければと思っている生徒が多くいる。 ・4役会の取り組みにおいては、継続して行うことができた。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・本来は、互いに集団としての大切さを意識して、みんなで充実した学校生活を送れるサポートができればよかった。しかし、学年としての課題もあり望ましい学年集団づくりとしてはよかったかどうかの判断は悩むところである。そんな中でも生徒は3年間で成長をしたと感じる。 ・特に3年生ではいろいろな行事で最高学年としての自覚ある行動や授業も含めた進路への真剣な取り組み、相手のことを考えた人との関係づくりに大きな歩みを見ることができた。
	望ましい学年集団づくり(2年) 則包	「豊かな自分づくりに挑戦」 稚心を去る～	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩としての自覚を持ち、何事にも前向きに取り組む、さわやかな自分になろう。 ・自身の行動を見つめ仲間とよりよい関係を作りともに成長していこう。 ・自慢できる学年を作ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席を意識させ、学習規律の定着。 ・挨拶、返事、掃除、時間厳守の4大目標の徹底。 ・部活動を通して体力、忍耐力の向上を目指す。 ・学年通信、学級通信の発行による学年、クラスの状況の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る意識はかなり高まってきたように思うが、学習に対する意識を高める取り組みをしていきたい ・リーダー会を中心に、いろんな行事の司会等の役割分担を数多く行わせ、リーダーとしての経験を積ませているが、学年の課題を自分たちで考えさせ、改善するための取り組みを行うところまでには至っていない。 ・規範意識のずれや人権意識の低さ、人間関係のいびつさが原因で対人トラブルとなり、人間関係を自分たちで修復することができない生徒が多い。学校と連携しながら、家庭でも指導してもらえるよう、保護者にも理解を求めていきたい。そのためにも、引き続き生徒指導に関しては迅速、丁寧にして、粘り強く関わっていき生活指導を進めていきたい。 ・学年教師団の連携は素晴らしいと感じている。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・「行事成功こそ生徒の意識向上のカギ！」だと思ふ。そして、どんな些細な活動であっても、しっかり取り組ませ、互いに評価しながら励ましていける学年が望ましい集団だと考える。今後も引き続き、生徒たちの行動を見つめ支援しながら、生徒の規範意識向上、人権感覚の向上を目指したい。 ・最近、苦手なことや、面倒くさいことから逃避しようとする生徒もみられるので、保護者の協力を得ながら、粘り強く支援し、集団の中で活動できるようにさせたいです。そのためにも、学年教師団の連携の良さを十分発揮していきたい。
	望ましい学年集団づくり(1年) 宮崎	「なりたい自分」になるための土台づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を責任をもって果たす。 ・自分も相手も大切にする。 ・常に挑戦者でいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を責任をもって果たす。 ・時間を守る。 ・力を合わせて、大きな力にする。 ・自分の意見だけを通そうとせず、相手の意見をしっかりと聞いたり、尊重したりする。 ・授業や部活動を通して、新しい自分を発見する。 ・できないことや限界を決めず、苦手なことや新しいことに挑戦する。 ・自他ともに成長したと思える自分になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する意識が高まってきている生徒が増えてきた。 ・自分のことは頑張るが、他者への意識が低い。集団としての意識をさらに高めていきたい。 ・入学当初の緊張がほぐれ、穏やかな表情で過ごすことができていたが、頑張り切れない生徒も少なくない。保健室への来室が多いのも課題である。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ることへの意識の低さ等課題はあるが、全体的には優しく、温かい集団に成長してきている。行事を通して、集団として力をつけてきたが、個人でもさらにステップアップしてほしい。4役会を通して、リーダーの育成にも力を入れてきた。 ・4役会主催の活動を通して「頑張る生徒が評価される」集団づくりを意識した。